

2 年	特に育成したい能力や態度 (具体的な数字や言葉で記載する) 2～3にしぼる。	授業改善の視点と具体的な方策 (具体的に達成すべき数値目標を記載する) 左側のものとリンク【対応させる】	達成率【割合】 A・・・90%以上の児童 B・・・90～80%の児童 C・・・80～70%の児童 D・・・70%以下の児童
国語	- 漢字の学習に慣れ、集中して取組む児童が多いが、文字の形が取りにくい、読み替えが理解できない児童もあり、漢字の定着率は、上位と下位に別れている。 - 読み聞かせや読書を楽しむことはできるが、登場人物の心情や様子を読み取ることのできない児童もいる。 - 作文など積極的に取組める児童もいるが、拗音、促音、長音、助詞、片仮名の表記が定着していない児童もいる。 - スピーチや発表の声が小さい児童がいる。	- 部首や似た漢字、読み方の違いに気付かせるように工夫する。朝学習や家庭学習でも繰り返し行う。 - 読み取りの時の語彙の力を増やすため、ことわざカルタや言葉に注目したスキルの学習をさせる。 - 作文は、書けたことを認め、嫌いにならないよう、書く機会を増やすことで文章を書けるようにしていく。 - 発表前にメモや練習をすることで、抵抗を減らし、自信をもって発表できるようにする。	
算数	- 繰り上がり、繰り下がりのある筆算は、ほとんどの児童が定着しているが、期間が空くとあやふやになってしまう児童もいる。特に繰り下がりのある筆算は苦手な児童が多い。 - 長さやかさの学習では、具体物を用いて、視覚や操作を通して理解できている。細かい数値を読み取ったり、単位の変換をしたりすることに課題がある児童がいる。 3桁の数では、10のまとまりや100のまとまりなど、位を意識して数を捉えている。数直線の1目盛りがいくつを表しているのかを読み取ることは全体的に課題がある。	- 定期的に計算のプリントで練習し、定着を図る。足し算と引き算が混ざった問題に取り組む。また、デジタルドリルを活用し、確実な定着を目指す。 - 日常の生活の中で、長さやかさに関する事を取り上げ、実体験から定着できるようにする。 - 復習を行う際に、1目盛りがいくつを表しているのかを捉えるように意識させる。	

生活	・地域に愛着をもち自然を大切にしたり，集団や社会の一員として安全で適切な行動をしたりする。 ・様々な手段を適切に使って直接的間接的に情報を伝え 合いながら，身近な人々と関わったり交流したりすることができるようにする。 ・多面的な見方で、身の回りの事象について「気付く」能力。	・学校付近や自宅付近の建物やお店はわかっているが、地図になると、自宅のだいたいの場所がわからなくなる児童が多い。そのため、地域に実際に出掛け、諸感覚を働かせながら見たり聞いたりするなどして関わり、それらの場所や人々に直接働きかけられるようにする。 ・表現方法には文字だけでなく、絵、つぶやき、タブレットでの写真撮影、プレゼン、工作など様々な手段があることを知らせ、自分の思いに合った表現ができるようにする。 ・上記を実践する中で、身近な人々、社会及び自然のよさやすばらしさ、自分との関わりに気付けるようにする。	
道徳	・教材文を読み、自分だったらどうするか考えられるようにする。 ・日常生活の中で、学習したことを生かして、より良い態度をとったり、温かな人間関係を築いたりすることができるようにする。 ・教材を通して考えたことや思ったことを自分の言葉で書けるようにする。	・教材文の場面を想起できるよう、掲示物を使用したり、役割読みをしたりし、登場人物の心情に寄り添えるようにしていく。 ・良い行動を褒め、自己肯定感を高めていく。友達の良い所が見付けられるよう、他教科・領域の学習や日常生活の中でも働きかけていく。 ・授業の流れを明確化し誰もが取組めるようにする。振り返りの場面ごとにペアや全体での意見交流をさせ、全体で発表させ合い、考えを深めたのちに本時の授業から感じた「自分ならこうする」といったことを振り返りのマークとともに記させる。	